

武雄、鹿島との合併でなく 太良町の自立を選ぼう！

合併問題で住民投票

太良町と武雄市、鹿島市、山内町、塩田町、嬉野町のあいだで合併についての話し合いが始まりました。

太良町の百武町長は、町民のなかで合併問題での議論を行ったうえで、今年末から来年はじめにかけて住民投票で町民

協議される主な合併協定項目

- ・合併の期日をいつにするか
 - ・新しい自治体の名称をどうするか
 - ・新しい市役所の場所をどこにするか
 - ・財産をどうするか
 - ・新しい議会の議員定数とこれまでの議員の任期をどうするか（農業委員も同じ）
 - ・税金の税率をどうするか
 - ・新しい市役所の機構、職員の定数、役職などをどうするか
 - ・上下水道など公共料金をどうするか
 - ・これまでの補助金をどうするか
- その他に、沢山の項目があります

の意思を問う考えであることを表明しています。

私たちは、この機会にこれからの太良町をどうするのかという問題について

町民のあいだで議論を深め、武雄市などとの合併でなく、自立した町づくりの道を選ぶことを提案します。

町民の皆さんのご家庭での話し合い、区や組合の話し合いの参考にしていただければと思います。

合併問題で意見、疑問などがあったらお知らせ下さい。また、町民の皆さんの集まりにお伺いして合併問題でのお話しができたらと思います。

お気軽に声をかけてください。



自立した町だからできる-----太良ならではの農林漁業振興策

太良町はミカンと漁業と畜産の町です。ミカン、漁業、畜産関係で町の独自の事業が沢山やられています。たとえば、次のようなものがあります。

- ・かんきつ経営農家資金利子補給補助金
- ・ミカン品質向上（マルチ）補助金
- ・地域養豚振興特別対策事業費補助金

太良町という自立した町があるから、地元の産業を大切にする独自の施策を進めることができるのです。鹿島市や武雄市と合併したら、施策の重点は市街地中心部の商業開発におかれるのではないかと、ミカンや畜産や漁業などはかたすみにおかれてしまうのではないかと---農家・漁家の皆さんは心配しています。

だからこそ、太良町をなくしてはならないと思うのです。

手ごろな規模だからできる---住民の願いにこたえる行政

他市町の人から「太良は健康づくりに力を入れている。いいね」という声を聞きます。

各種のがん検診、予防接種、妊婦・乳児検診、前立腺がん検診など個人負担なしで町が独自に行っている保健事業が沢山あります。住民の保健につかっているお金は、武雄市や鹿島市にくらべてうんと多くなっています。合併によってこれまで太良町が積み重ねてきた健康づくりの努力がくずされてしまうのではないかと心配されます。

国や県は、町村は規模が小さくて何もできないようなことを言っていますが、むしろ逆です。地域の問題や住民の要求をきめこまかくとらえることができる、すばやく対処することができる-----これは町村だからできることです。

太良町が人口 12,000 人という手ごろな規模をいかした行政を進めれば、自然環境の豊かな町、安全で美味しいものを食べることのできる町、住民の健康と福祉を大切にしている町として、特色ある町づくりを進めることができます。

合併して大きな市の片隅にいるよりも、はるかに誇らしいことではないでしょうか。



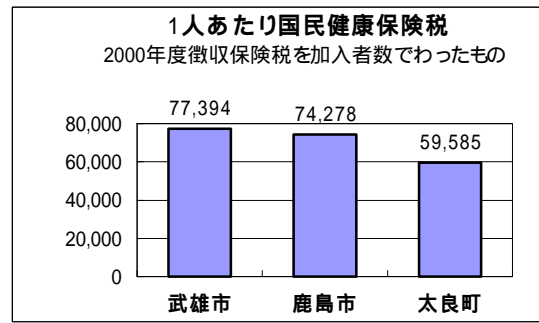
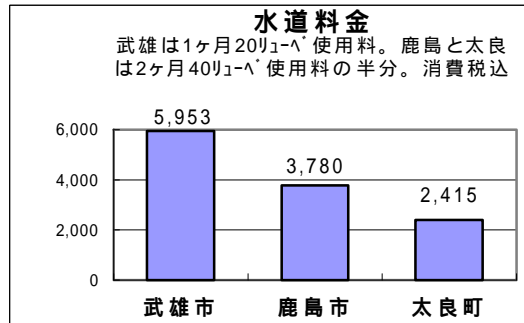
合併問題を考える太良町民の会

2002年7月1日

連絡先 若芝栄之輔 7-0943 川上賢二 7-9072

武雄市、鹿島市と合併するとこんな問題が！

太良町民の負担が高くなり、サービスは低下するのでは？



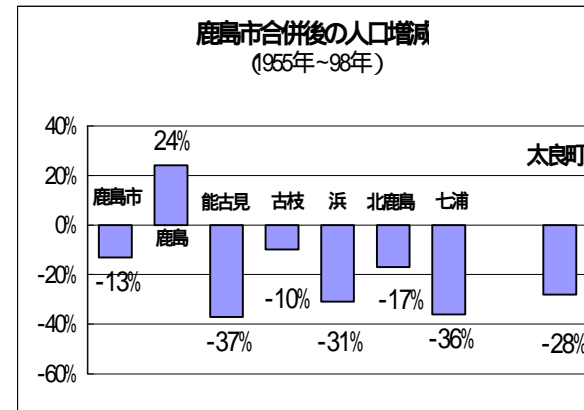
- 水道料も国民健康保険税も、上のグラフで見ように太良町にくらべて武雄市、鹿島市の方がうんと高くなっています。合併すれば、高いほうに合わされるのではないかと心配です。
- ミカン、畜産、漁業などの補助金制度、健康づくりのための無料検診制度など太良町がこれまで独自に進めてきた制度が合併したらなくなるのではないかと心配です。
- これまで、太良町役場を得意先にしてきた建設業者、水道や下水道などの工事関係者、ガソリン・事務用品などを納入してきた業者、仕事の委託を受けてきた業者、職員が買物や飲食に出かけていた商店・飲食店などは合併後どうなるのでしょうか？

役場も議会もなくなると、住民の意見や要望が通りにくくなるのでは？

- 合併すれば町役場がなくなります。最初は支所を置いて、これまでの例ではだんだん縮小されています。用事をはたしに、武雄または鹿島まで出かけるだけでも大変です。
- これまで、町議会があり、町役場がありました。町民の負担をどれほどにするのか、どうつかうかという大事なことは太良で決めることが出来ました。身近に町会議員や役場の職員もいて、町に対する意見や要望を気軽にいうこともできました。
- 合併で大きな市になればなるほど、南の片隅におかれてしまい、太良の声が通らなくなるのではないかと心配です。国や県は「地域審議会」をつくらうと言っていますが、自治の権限も財政の権限もありません。
- 太良町として自立しているから、国や県に太良町のことについて独自に主張することができます。この発言権をなくしてはならないと思います。

太良の人口が減り、さびれていくのでは？

お隣の旧七浦村は、1955年の合併で役場や議会がなくなり、1998年には36%も人口が減りました（同じ期間に太良町は28%の人口減）。中学校も統合されました。合併すれば、武雄市などに人口が集中して、太良は人口が減り、さびれていくのではないかと心配です。



「ヒト・モノ・カネを集中する」--- 合併の本音を語る武雄市議会の請願

今年3月議会で武雄市議会が賛成多数で採択した請願は、「市町村合併の問題は、---ヒト・モノ・カネそして情報を集中することで、地域を発展させる絶好のチャンスであります」と武雄市の本音を語っています。

新幹線建設のぼう大な地元負担が長崎線沿いの住民にも

鉄建公団は、今年1月九州新幹線長崎ルート¹の武雄温泉駅から長崎駅までの工事認可を申請しました。建設費は4,000億円と見積もられていますが、佐賀県側の地元負担は200億円近くになります。これに、嬉野温泉駅の新設費と肥前山口～武雄間の複線化費用の地元負担が加わります。県は、そのうちの一部を地元市町村に負担させますが、太良町が武雄市・嬉野町と合併するとその負担は太良町民にもかかってきます。

「R長崎線は廃止されるのに（そのあと第3セクターにするということになってはいますが）、新幹線建設費は負担させられる---太良町民にとってはガマンできない話です。

こんなことから、2市4町合併案は、武雄市中心の合併でないかという疑問が出てきます。

合併して残るのは大型開発の借金だけ！

住民には負担の引き上げとサービス低下のおしつけ

- 国は「平成17年3月末までに合併すれば、10年間は交付税を減らさない。多額の借金をしてよい、返済の70%は国で面倒見る」と言っています。ここには大きな落とし穴があります。
 - 第1に、「財政難だから合併せよ」と言っているのです。「財政難だから」と約束不履行になる危険が十分にあります。
 - 第2に、多額の借金は武雄市の新幹線関連事業のような都市中心部の大型開発にまわされます。住民には高い負担とサービスの切り下げが押しつけられているのがこれまでの例です。
 - 第3に、10年たって優遇措置がなくなると借金返済の方が大きくなります。「財政難だから」と住民の負担はふえ、サービスは切り捨てられてしまうことになります。
- 「合併しないと交付税が削られる」と言っている人がいます。段階補正の見なおしが一部行われていますが、交付税制度がどうなるかはまだ決まっていません。合併しない市町村が多ければ地方交付税制度の改悪は出来なくなります。

太良町民にとっては合併によるメリット(利益)よりも、デメリット(不利益)の方が、はるかに大きいのではないのでしょうか？

